

テーマ：「生命をふきこむ作業」

講師：千葉県保健医療大学 岡村 太郎

司会：ロザリオ高齢者支援センター 井上 創

「悩める人々への銘」

大きなことを成し遂げる為に、強さを求めたのに、謙遜を学ぶようにと弱さを授かった。
偉大なことをできるようにと健康を求めたのに、より良きことをするようにと病気を賜った。
幸せになろうとして、富を求めたのに、賢明であるようにと貧困を授かった。
世に人々の賞賛を得ようと成功を求めたのに、得意にならないようにと失敗を授かった。
人生を楽しむために、あらゆるものを求めたのに、あらゆるものを慈しむために人生を賜った。
求めたものは一つとして与えられなかったが、願いは全て聞き届けられた。
私は、もっとも豊かに祝福されたのだ。
作者不詳（訳の出典：加藤諦三著『無名兵士の言葉』）

「悩める人々への銘」は、ニューヨーク大学附属ラスク・リハビリテーション研究所のロビーに掲げてあると言われている「ことば」です。

悩める人々の抱える問題は「老い」であったり、将来動く見込みのない手足のことであったり、あるいは、対象者のまわりの方々が抱える悩みなのかもしれません。現代医学の治癒という意味では、どうしようもないことがあります。ラスクは、さらに「リハビリテーションとは単に生命に物理的時間を継ぎ足すのではなく、物理的時間に生命を吹き込むことだ」と言っています。

作業療法士は上記したような状況・問題に生活や生命という意味のライフを吹き込むお手伝いができるのでしょうか？

今回、「作業療法の未来」を考えるため ICF とアメリカ作業療法士協会（AOTA）「作業療法実践の枠組み—領域とプロセス」（2002年）から作業療法の独自性について、みなさんと考えたいと思います。「作業療法の未来」は、作業療法独自の枠を、作業療法士一人一人が「語る」ことによります。みなさんの語る「ことば」から作業療法の核が立ち現れることを願っています。